

地殻災害の軽減と学術・教育



1855年安政江戸地震の被害の様子『安政見聞誌』東京大学地震研究所蔵

東日本大震災の後、地震学・火山学を中心とした自然科学分野と、実学としての人文・社会科学の連携が強くなるぞまれている。そこで地震学、火山学、地質学、地理学、歴史学（文献・考古）、防災研究などの諸分野が集まって、状況を報告しあい、地殻災害の予知・予測・警告や情報管理のあり方、防災・地学教育のあり方、歴史地震・噴火の研究など多様な問題を討議することとした。なお、科学技術・学術審議会測地学分科会より、来年度から5年間の地震火山観測研究計画（中間まとめ）が発表されている。この計画も地震学・火山学を災害科学の一環ととらえ、文理融合研究を強調するものとなっており、その趣旨も討議の対象となる。現在、地殻災害をめぐる、学術の鼎の軽重が問われている。文理の連携と融合の実現をめざす、このフォーラムに多くの方々参加をお願いしたい。

■ プログラム ■

- 10:00 開会・趣旨説明
- 10:30-10:55 佐竹健治（地震学）東京大学地震研究所教授
「歴史地震・津波の研究と大地震の長期予測」
- 10:55-11:20 中田節也（火山学）東京大学地震研究所教授
「低頻度大規模噴火に備えた研究のあり方」
- 11:20-11:45 熊木洋太（地理学）専修大学文学部教授
「地殻災害軽減にむけた地理学の役割」
- 11:45-12:10 伊藤谷生（地質学）帝京平成大学現代ライフ学部教授
「地殻災害軽減の基礎を担う地質学」
- 13:10-13:35 平川 新（歴史学・文献）東北大学災害科学国際研究所長
「地震・津波に関する歴史研究と災害科学研究のあり方」
- 13:35-14:00 田中広明（歴史学・考古）埼玉県埋蔵文化財調査事業団主査
「弘仁地震の被害と復興、そして教訓」
- 14:00-14:25 林 春男（防災研究）京都大学防災研究所教授
「地殻災害軽減のための防災研究の枠組み」
- 14:25-14:50 宮城豊彦（地理学）東北学院大学教養学部教授
「東日本大震災におけるハザードマップとGISを活用した自然地理・防災教育の実践」
- 15:05-16:45 問題提起と討議
- 17:00 閉会



1783年天明浅間山噴火の様子
『天明三年浅間山噴火ノ図 安永八年桜島噴火ノ図』
東京大学地震研究所蔵

2013年11月16日（土）

10:00-17:00（開場9:40）

日本学術会議 講堂（定員300人）

参加費無料 お申し込み不要 当日先着順

主催 日本学術会議

運営 学術会議史学委員会 地域研究委員会 地球惑星科学委員会

世話人 木村茂光（帝京大学文学部教授 第1部史学委員会委員長）

平田 直（東京大学地震研究所教授 第3部連携会員）

お問い合わせ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34 TEL:03-3403-6295 FAX:03-3403-1260



（アクセス）東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口